

事業名

駅前農業公園「ながはま『菜園する?!』パーク」

部会名

事業概要

田村駅周辺にプランターを設置して野菜栽培や地域振興イベントにする参画する人を公募する。運営については企業・団体などの委託先を公募することとし、将来的な自走も目指す。

収穫した野菜類でピザを焼き、同プロジェクトのマルシェイベントで販売することで収益を獲得し、新たな種苗、農機具などを購入して継続性、自立性のある取組みとする。また、滋賀県立長浜農業高等学校に協力要請し、先生や生徒による作業指導などの支援体制を取る。

〔想定される参加者〕

- ・通勤通学で田村駅を利用する人
- ・田村駅周辺に居住されている近隣の人

〔栽培品目〕

トマト、バジル、なす、ピーマン、玉ねぎ、ズッキーニなどピザの材料となる野菜を中心とする。

現在値・課題感

現行のまちづくりは、行政や活動団体が施設やイベントを提供し、市民が消費するという関係性に固定されがちである。

面白く、活動的なまちには、“まちを使い、楽しもうとする市民”がいる。まずは、まちに関わり、楽しみを生み出すマインドを持った市民を育てることが必要である。

テーマ「消費される賑わいから、共創（コ・デザイン）する賑わいに」

事業目的・ねらい・予想される効果

【事業全体のねらい】

市民が主体となってまちに関わり、まちを楽しく面白くする力を育成することである。

小さい規模から活動を始め、市民意識の醸成や自主的な企画・運営スキルの向上に伴い、規模も拡大させ関わり方も深めていく。

市民自ら考え、関わり、企画運営する拠点として小さな農業公園を整備することで、自分たちの関わりある場所としてシビックプライド醸成のきっかけとなる。

当該事業によって、自らの力でまちを使い、変えていこうとする意識の芽吹きや、新たなコミュニティが生まれることが予想される。

【田村駅の利用促進】

駅周辺の未利用スペースを活用することで、駅利用者の増進が見込める。

指標の推移	基準年（ ）	2025	2026	2027
アウトカム 活動参画意識指標（アンケート調査の肯定的回答率）		50%	50%	70%
アウトプット 活動参加人数		20人	20人	20人

必要経費（予算）

事業イメージ



2023年度
ふれあう、つながる
シェア型菜園活動

モリの休日

会員募集

たべる
育てた野菜を
お店が調理、
素材をいかした、
お料理をいただきます。

クッキング
おうちでおいしくいただける
お野菜レシピを作成。

まなぶ
お野菜の育て方や栄養などの
知識を身につけます。

あそぶ
菜園への遠足や、
マルシェへの参加など、
楽しいことに挑戦！

そだてる
種まきや植付けなど、
土にふれ、お野菜を育てる
プランターをつくれます。

しゅうかく
大切にお手入れし、
育てた野菜を収穫、
持ち帰りやイベントなどに
活用します。

モリの休日とは

キューズモール内12ヶ所の菜園で共同でお野菜を育てたり、
収穫した野菜をみんなで食べたり、遠足に行ったりと、
菜園から生まれる無限の可能性を、たくさんご家族や地域のみんなと楽しみたい。
親子はもちろん、ご友人との参加も大歓迎。
野菜だけでなく、人やまちの出会いも育てる「新しい休日の過ごし方」
キューズモールからはじめてみませんか。

開催日時 2023年1月21日(土)13:00～2月4日(土)13:00

開催場所 12ヶ所 ※定員を超過した場合は抽選となります。

参加費 4～9月の半年間 ※10月～2024年3月の期間に改めてご告知となります。

年会費 12,000円/4～9月の半年間 ※年会費・運営費・資料費を含む。

※申し込みキャンセルは2月12日(土)を11,000円・12,000円を差引させていただきます。

申し込みはこちら

申し込みフォームはこちら

（主催：おだい・おだい）モリの休日事務局 ☐ morino@jitsu@gmail.com

事業名	市場の一般開放イベント	部会名
-----	-------------	-----

事業概要 長浜地方卸売市場の大屋根下を「全天候型」イベントスペースとして活用。駅から近い好立地を生かし様々な媒体がまじわる場として、市場を活用することで、地域内外の注目を高める。 ・演劇 ・スケボーパーク ・一般マルシェ など 将来的な市場の在り方について、イベント時にアンケート調査を行うことで、方向性を定める際の根拠資料として使用できる。 ■事業実施方法 運営者を公募し、市の事業として委託する	事業目的・ねらい・予想される効果 ・長浜地方卸売市場の認知度向上 ・田村駅乗降客数の増加 ・様々な主体、媒体がまじわる場の創出 ・アンケート調査による施設分析
--	--

指標の推移	基準年（ ）	2025	2026	2027
アウトカム .				
アウトプット .				

必要経費（予算）



事業名

長浜の新しい産業づくりに向けた複数テーマのイベント開催

部会名

事業概要

工業団地誘致における市のテーマ設定において、意識の醸成及び実際の誘致に繋がるよう、また、テーマとして検証・对外発信できるよう、複数の新規事業アイデア募集イベントを開催する。（※市場用地利活用も視野に）

まずは「食・農」をテーマに市内で行う新規事業アイデアを募集。

例）①新規事業の対象となる課題を市内事業者から提示

例）②長浜バイオ大学などの研究機関のシーズ起点

イベントは2回に分けて開催。

1回目はアイディアソンを都会（東京、大阪、名古屋などの都会）で行い、2回目は最終審査会として長浜で行う。1回目でアイディア出しをして良いアイデアを出した人は長浜に招致する（費用補助）。最終審査会は、市民も参加できるように工夫し、F Bを得る。

加えて、長浜に来る際の宿泊先として、田村駅近くの空き家（空き家バンク登録先など）を活用することも想定し、将来的にシェアハウスとしての活用可能性を検証する。

最終的に優勝したアイデアは、市内で実証実験をすることができる。

事業目的・ねらい・予想される効果

事業目的・ねらい

工業団地に誘致する産業について、市内の機運を醸成する

都会の方を関係人口として参加してもらう

住民が変化を常にキャッチアップして納得感を得てもらう

産業用地への誘致産業候補を見つける、作る

予想される効果

地方産業の売上upの可能性はある

関係人口upの可能性はある

住民が地方産業に興味を持つ

現在値・課題感

ステークホルダー	長浜事業者	都会の方	住民
現在地/課題感	・地域課題を中々自力で解決ができない ・長浜にあるシーズをもっと活用したい	・長浜市や地方との接点を作りにくい ・地方活性化に関わりたい ・新事業として参入したい	・長浜に新たな変化や魅力に気づく機会が少ない

指標の推移	基準年（ ）	2025	2026	2027
アウトカム				
アウトプット	関係人口up（参加者数）	50人	20人	20人
誘致産業のテーマの方向性が確立する（仮説：食・農・健康）				

必要経費（予算）

事業技術課題
アイデアソン
(1-3日)

start up weekendのよう
に

最終審査会
(1日)

実証
(3-6ヶ月)

展望



長浜事業者×都会の人
@東海or関西主要都市



長浜事業者×都会の人×住民



長浜事業者×都会の人×住民
@最初の拠点: バイオ大学

例えば以下を実施し、誘致に備える？

- ・新部署設立
- ・ベンチャー設立
- ・ジョイントベンチャー設立

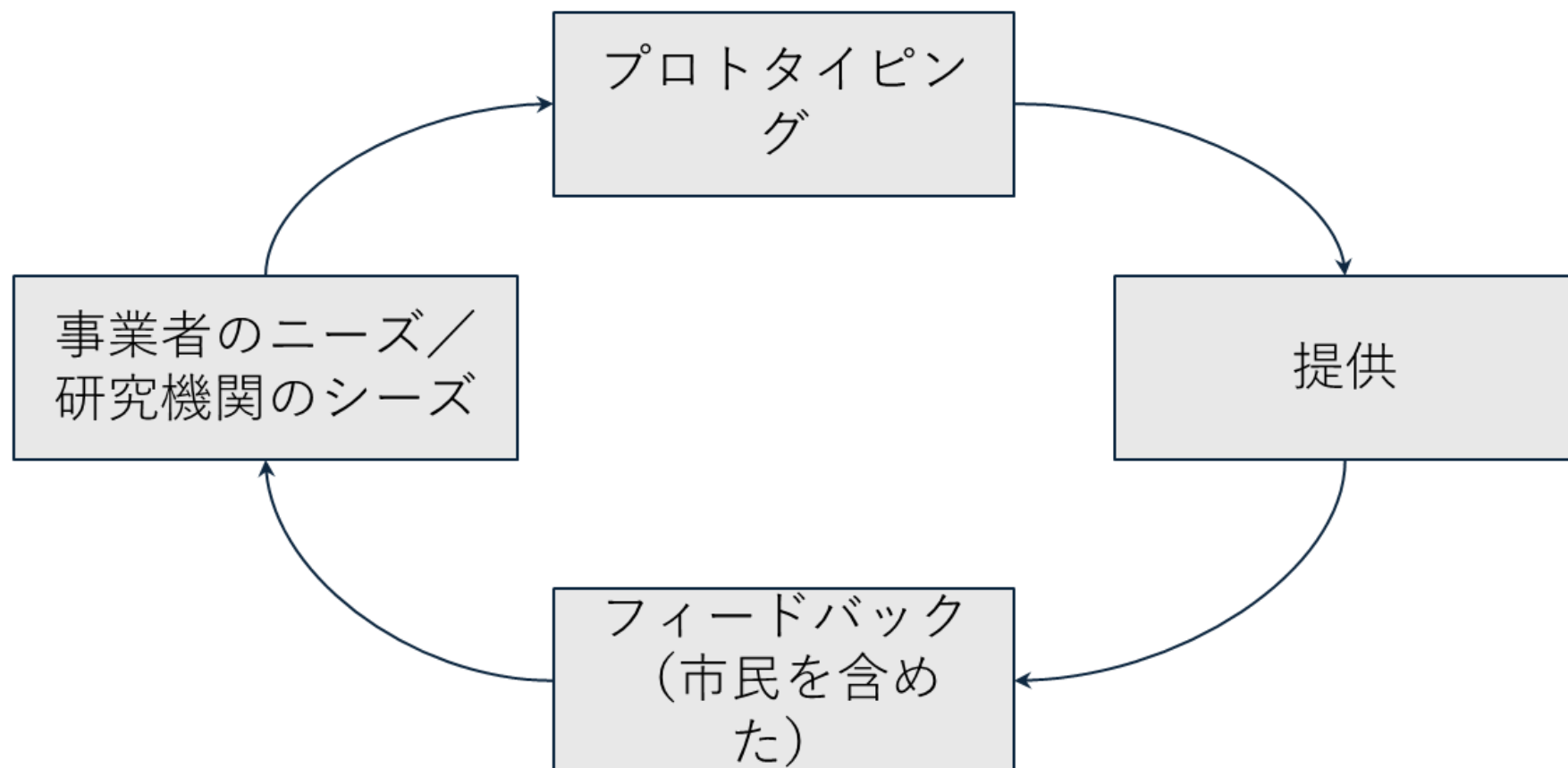
テーマは①②

- ①新規事業の対象となる課題は市内事業者から提示する
- ②長浜バイオ大学などの研究機関のシーズ起点。

同時に市民向け
イベントも開催

【参考】

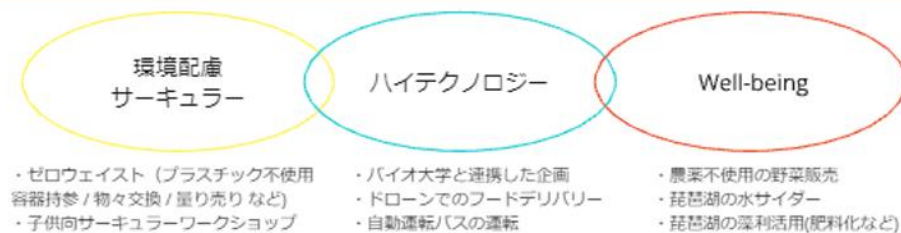
中長期目標：インキュベーション・ハブのポイント
(→次年度はこれをイベント的に試行する)



事業概要

さいかち浜を拠点として南長浜の「未来生活実験場」となるような地域巻き込み型のマルシェイベントを実施。南長浜エリアに散らばる資産・価値を集約した場を創出し、地域内外へアプローチ。イベントをきっかけに南長浜エリアの認知度を上げ、乗降客数の増加を目指す。

南長浜の未来生活実験場



南長浜の資産を生かした先進的な企画を実現し、将来的な生活のショーケースとする

現在値・課題感

- ❑ 田村駅はJR琵琶湖線の駅において最も琵琶湖から近い駅にもかかわらず、琵琶湖への動線が確立（認知）されておらず、地域資源の魅力が発信できていない。
- ❑ 南長浜地区は山・湖・農の「典型的な田舎」であり、テクノロジーが実装されておらず不便な生活が想起されやすい
- ❑ 都市住民から見れば、循環型生活（社会）の実現イメージを持ちやすい環境であるのに、それがシビックプライドに繋がっていない
- ❑ 協賛企業の発掘

事業目的・ねらい・予想される効果

【事業全体の目的とねらい】

- ❑ 南長浜の未来のライフスタイルの一部を体現し、プロジェクトに対する期待感を醸成する
- ❑ サーキュラーエコノミーの先端的な実験場として認識されることで、起業の参画が促進する
- ❑ イベントを通じて田村駅乗降客数が瞬間的に増加、将来的に常設施設を整備する際のエビデンスとなる

【未来の実験場としての情報発信】

- ❑ 多様なステークホルダーが集い未来を具現化することで、「まじわり、未来が育つまち」という南長浜のコンセプトを体現する
- ❑ 未来のライフスタイルのショーケースとなることで、市外の起業や組織が注目し、南長浜プロジェクトへの参画が推進する

【分散した田村駅周辺資源の文脈統合】

- ❑ 田村駅を中心に分散しているさいかち浜や田村山、教習所跡地などの資源をイベントを通じて統合し、一つの文脈をつくる

【南長浜エリアのシビックプライド醸成】

- ❑ コンセプトをショーケースとして示すことで、南長浜全体へ波及効果とシビックプライド醸成を狙う

【田村駅整備のためのエビデンス】

- ❑ イベント実施時の乗降客数像が将来的な駅整備のエビデンスとなる

指標の推移

基準年（ 2022 ）

2025

2026

2027

アウトカム 田村駅乗降客数（年間）

403千人

403千人

423千人（10%増）

443千人（10%増）

アウトプット マルシェ集客数

28千人（2日開催）

56千人（4日開催）

84千人（6日開催）

必要経費（予算）

